石岡市ふるさと歴史館　第 27 回企画展

東大橋原遺跡

ー石岡市の縄文時代ー

令和４年

１月１２日（水）

⇨４月３日（日）

午前 10 時～午後４時 30 分

月曜休館　入館無料

石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社１-2-10　石岡小学校敷地内

電話　0299-23-2398

※新型コロナウイルスの影響により、開館時間が変わる可能性があります。お出かけ前に、最新情報をお確かめください。

石岡市立ふるさと歴史館　第 27 回企画展

東大橋原遺跡　―石岡市の縄文時代―

◆目次

はじめに　1
東大橋原遺跡の調査　2
東大橋原遺跡の遺物　6
彩られた縄文時代　10
東大橋原遺跡の人々と植物利用　12
おわりに　14

◆例言

本冊子は，令和 4 年(2022)1 月 12 日～4 月 3 日を会期として開催する石岡市立ふるさと歴史館第 27 回企画展に際して作成したものです。

展示及び本冊子の編集・執筆は，石岡市教育委員会　文化振興課（金子悠人）が行いました。

展示にあたっては以下の文献をはじめ，各発掘調査報告書など多くの文献を参考といたしました。

石教委 1978～1980『石岡市東大橋原遺跡　第 1 次調査～第 3 次調査』
工藤雄一郎ほか編 2017『さらにわかった！縄文人の植物利用』

◆謝辞

本展示は以下の方々・機関のご協力によって開催することができました。心より感謝申し上げます。

小林謙一，佐々木由香，長谷川則子，そとの保育園（敬称略）

はじめに

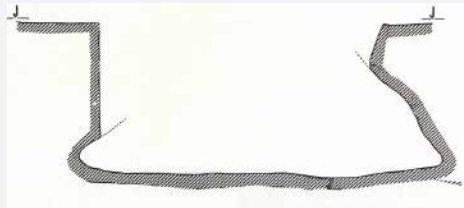
東大橋原遺跡は，園部川をのぞむ台地上に位置しています。東西約 770m，南北約 700m の広大な範囲に縄文時代中期を中心とした集落が確認されています。昭和 52 年から昭和 54 年まで 3 度にわたって学術調査がおこなわれました。土器焼成遺構と呼ばれる土器作りに関する珍しい遺構が検出されているほか，縄文時代の装飾品や粘土の塊など当時の生活がうかがえる遺物が数多く出土しています。そのため，石岡市内のみならず，霞ケ浦沿岸の縄文文化を考える上でも重要な遺跡となっています。

しかし，その調査成果は報告書等にまとめられているものの，多くの出土遺物が収蔵庫に眠ったままになっています。発掘調査から 40 年が経過し，縄文時代遺跡の世界遺産登録など，縄文時代が注目されている今，遺物たちを公開するとともに，新たな視点を加えて改めて東大橋原遺跡を考えてみようと思います

園部川沿いから東大橋原遺跡を望む

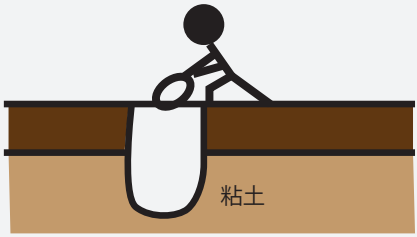
ここでは，当時の東大橋原遺跡の調査について迫っていきます。本遺跡は，発掘調査をする以前はその多くが畑地になっていました。そのため，昭和 45 年・50 年に刊行された『茨城県遺跡地名表』ではその遺跡名が掲載されていないなど，詳細な内容は分かっていませんでした。しかし，昭和 52 年 2 月，農家の方が耕作をしている最中に多量の縄文土器が地中から出てきました。これにより，東大橋原遺跡が縄文時代に関連する遺跡であると推測されたことから，より詳しく遺跡を知ろうということで発掘調査がおこなわれました。
昭和 52 年 8 月におこなわれた第 1 次調査では，遺跡の北東部にあたる地区の 170 ㎡が対象になりました。この調査では 12 基の土坑が確認されました。そのうち 7 基は袋状 (フラスコ状) 土坑とよばれる断面が袋の形のような土坑でした。これらの多くは，粘土採掘坑 (土器を作るための粘土を採掘した穴) と考えられています。作業効率をあげるため，このような形になったのでしょう。

第 1 次調査 3 号土坑出土状況

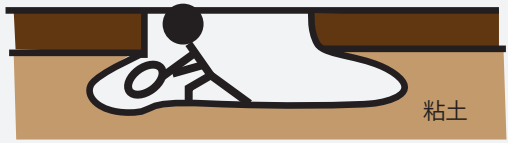


第 1 次調査で確認された袋状土坑（1 号土坑）

☆粘土採掘で袋状土坑ができるまで



①粘土が埋まっている層まで
垂直に穴を掘る



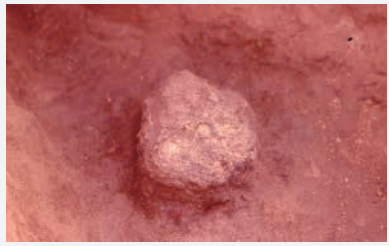
②粘土の層に到達したら横方向に穴を掘り進める
→袋状土坑の完成

昭和 53 年 7 月～ 8 月におこなわれた第 2 次調査では，A ～ C 地区の合計 1500 ㎡が対象になりました。A 地区は，第 1 次調査の南側に隣接した範囲で，縄文時代 (加曽利 E 式期) の竪穴住居跡 2 軒と土坑 8 基・古墳時代の竪穴住居跡 1 軒が発見されました。ここでは日本ではじめての発見となる**土器焼成遺構** (土器を焼き上げる場所) が確認されました。多量の炭化物や土器焼成塊，動物骨など特殊な遺物も数多く検出されています。

また，A 地区から 70m ほど西側に位置している B 地区でも，縄文時代 (加曽利 E 式期) の竪穴住居跡 1 軒と土坑 11 基・古墳時代の竪穴住居跡 1 軒が確認されました。

A 地区と B 地区の間に位置する C 地区では，主な遺構はみつかりませんでした。

第 2 次調査 A-3 号遺構（土器焼成遺構写真）



第 2 次調査 A-3 号遺構で発見された粘土塊

多量の縄文土器が出土した状況

第 2 次調査調査光景

昭和 54 年 7 月～ 8 月におこなわれた第 3 次調査では，D ～ F 地区が対象となりました。D 地区は A 地区の 15m ほど南東に位置し，縄文時代 (阿玉台式期)・歴史時代の竪穴住居跡各 1 軒，時期不明土坑が 7 基確認されました。また，B 地区の南南東 40m に位置する E 地区では，23 基の土坑が確認されました。うち 20 基は袋状土坑かそれに類似するものでした。B 地区に隣接する F 地区では遺構が検出されませんでした。
3 回にわたる調査により，土器焼成遺構の発見や粘土採掘坑と思われる袋状土坑の検出など多くの調査成果を挙げました。これらの成果は，『石岡市東大橋原遺跡　第 1 次～第 3 次調査報告』，『石岡市の遺跡』，『石岡市史』などの刊行物にたびたび取り上げられています。
ここからは，そういった書物で取り上げられなかった内容も含め，東大橋原遺跡で出土した土器を中心とした遺物についてみていこうと思います。

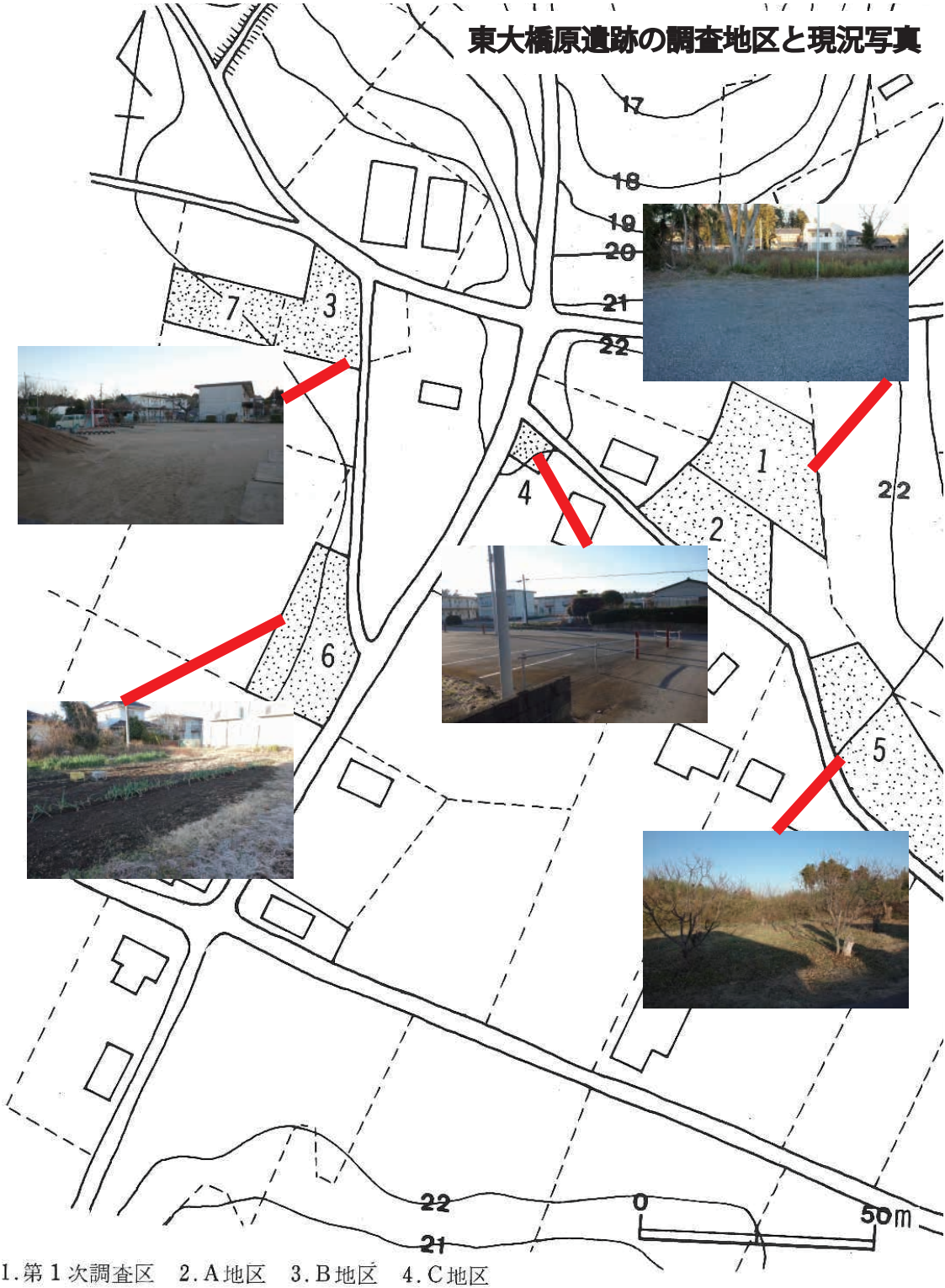
第 3 次調査調査光景

第 3 次調査出土遺物

発掘調査の様子（第 2 次）

発掘調査では，写真のように区画を設定し，その区画の一部を残して層位などを確認します。

東大橋原遺跡の調査地区と現況写真



1.第１次調査区　2.Ａ地区　3.Ｂ地区　4.Ｃ地区
5.Ｄ地区　6.Ｅ地区　7.Ｆ地区

第２図　東大橋原遺跡全体図 1980 東大橋原報告書より

東大橋原遺跡は，縄文時代中期を中心とした集落跡です。縄文時代は 1 万年以上続いており，その中でも，およそ 5500 年前から 4500 年前のおよそ 1000 年間を縄文時代中期と呼んでいます。日本で 20 件目の世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の代表的な遺跡である三内丸山遺跡もこの時期を中心とした遺跡です。石岡市でも，大作台遺跡や白久台遺跡，中津川遺跡，宮平遺跡，東田中遺跡，大増下根遺跡など多くの遺跡が確認されています。縄文時代の中でも，人口も多く，土器の装飾も華やかな，豊かな時代と言われています。

三内丸山遺跡現況 (2021 年 10 月　展示担当者撮影)

大増下根遺跡縄文中期土器出土状況（展示担当者撮影）

縄文時代略年表

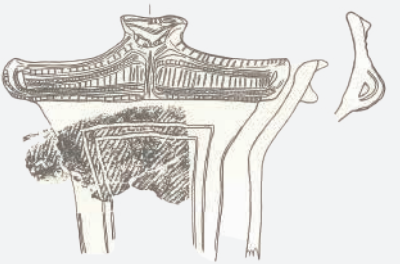
土器は作成された時期や地域によって形や装飾に違いがあります。考古学では，類似した土器を「型式」と呼んで整理しています。これは，私たちの生活に置き換えるとわかりやすいと思います。

例えば，電話の変化は，ダイヤル式の黒電話からプッシュ式固定電話，携帯電話を経てスマートフォンに移り変わっています。土器もそういった形・デザインの変化が起こっており，東大橋原遺跡では，阿玉台式と加曽利 E 式という 2 つの型式の土器が中心となって出土しました。

電話の変化。土器にも同じような変化があり，それとともに呼ばれ方も変わります。

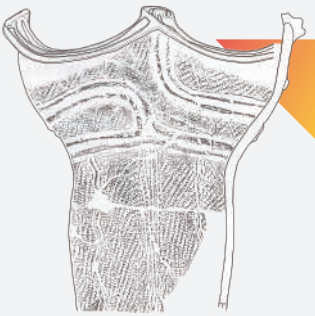
阿玉台式は，石岡市も含めた関東地方東部を主体として分布する縄文時代中期中葉 (約 5300 ～ 5000 年前) の型式で，千葉県香取市の阿玉台貝塚出土土器を型式の基準としています。東大橋原遺跡では，阿玉台式のなかでも新しい阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期の土器が多く見つかっています。変化にとんだ口縁部の把手や雲母が多く含まれるのが特徴です。

東田中遺跡出土阿玉台式土器
『東田中遺跡　中津川遺跡２』



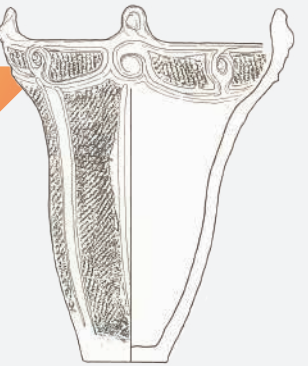
大作台遺跡出土阿玉台式土器
『茨城県石岡市大作台遺跡発掘調査報告』

加曽利 E 式は，関東地方を主体として分布する縄文時代中期後葉 (約 5000 ～ 4500 年前) の型式で，千葉県千葉市の加曽利貝塚 E 地点出土土器を基準としています。石岡市では，阿玉台式の次の時代の土器の名称です。東大橋原遺跡では，加曽利 E 式のなかでも古い加曽利 E 1 式期を中心とした土器が確認されています。渦巻文などの口縁部装飾が特徴的です。いずれの土器も図のように多くの市内遺跡で出土例があります。



三村城跡出土加曽利 E 式土器
『三村城跡』

東田中遺跡出土加曽利 E 式土器
『東田中遺跡　中津川遺跡２』

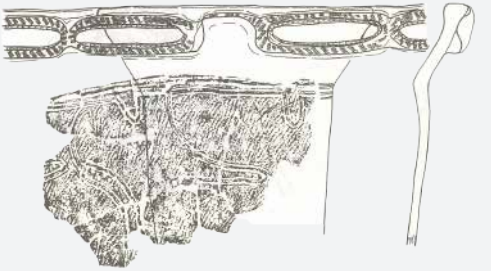


宮平遺跡出土加曽利 E 式土器
『宮平遺跡発掘調査報告書』

東大橋原遺跡では，これまで見てきた阿玉台式と加曽利 E 式にまたがる「類型」として設定された土器も出土しています。ここでは，その中から中峠 5 次 2 住型深鉢と北 50 住型深鉢を展示しています。中峠 5 次 2 住型深鉢は，特徴的な横 S 字などの隆線に全面的に縄文が施されています。また，北 50 住型深鉢は，隆線で楕円を連続して貼り付けたような文様が特徴的です。

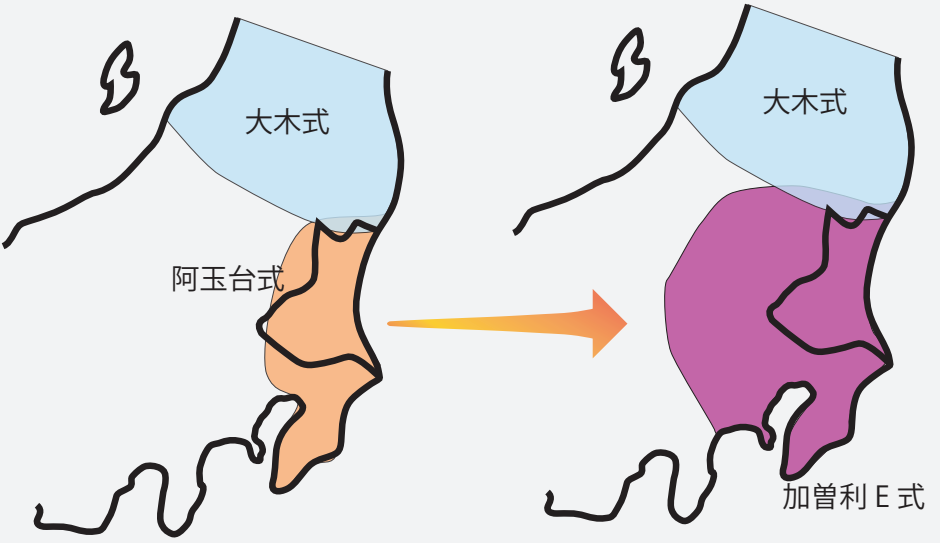
東田中遺跡中峠 5 次 2 住類似深鉢
『東田中遺跡　中津川遺跡 2』

代官屋敷遺跡出土中峠 5 次 2 住類似深鉢
『代官屋敷遺跡』



大作台遺跡出土北 50 住型深鉢
『茨城県石岡市大作台遺跡発掘調査報告』

これらの土器はどこから来たのでしょうか。中峠 5 次 2 住型深鉢は，隆線の上から縄文を施すなど阿玉台式の特徴が確認されます。また，北 50 住型深鉢は，その楕円を連続する手法から東北地方の大木 8a 式との関連が考えられています。皆さんは何を思いましたか。縄文時代の文様の変化をお楽しみください。

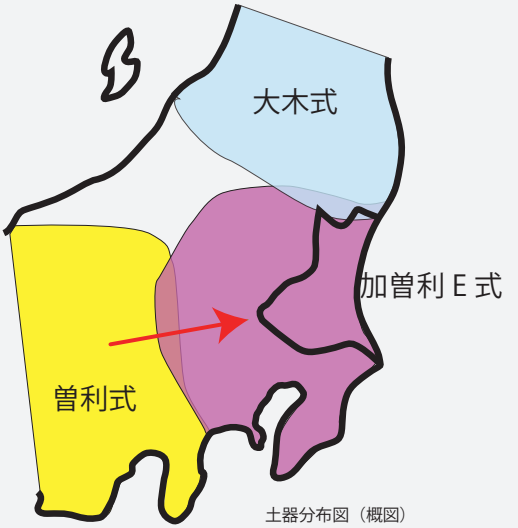


これまでの土器分布図（概図）

東大橋原遺跡では，ほかにも他の地域との関係が考えられる土器もみつかっています。

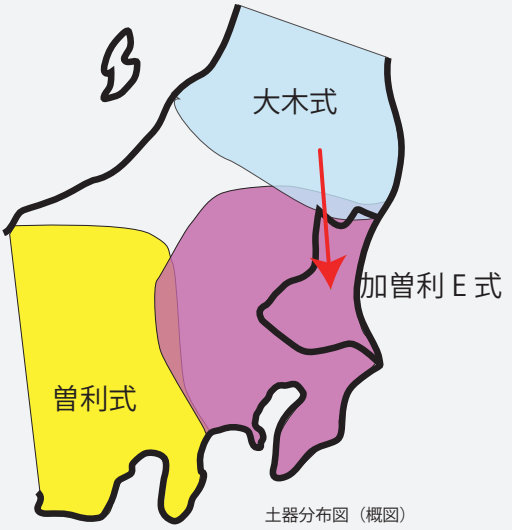
曽利式土器は，主に甲信地方を中心として縄文時代中期（約 5000 ～ 4500）年前に作られた土器ですが，東大橋原遺跡でも出土しています。太い粘土紐が目に入りますが，土器の表面を見ると本来縦方向に条線が入るところに縄文が施されています。これは加曽利 E 式の影響によるものです。曽利式と加曽利 E 式が「合体」したのでしょうか。文様を丁寧に観察すると地域の交流も見えてきます。

宮平遺跡出土曽利式土器
『宮平遺跡発掘調査報告書』



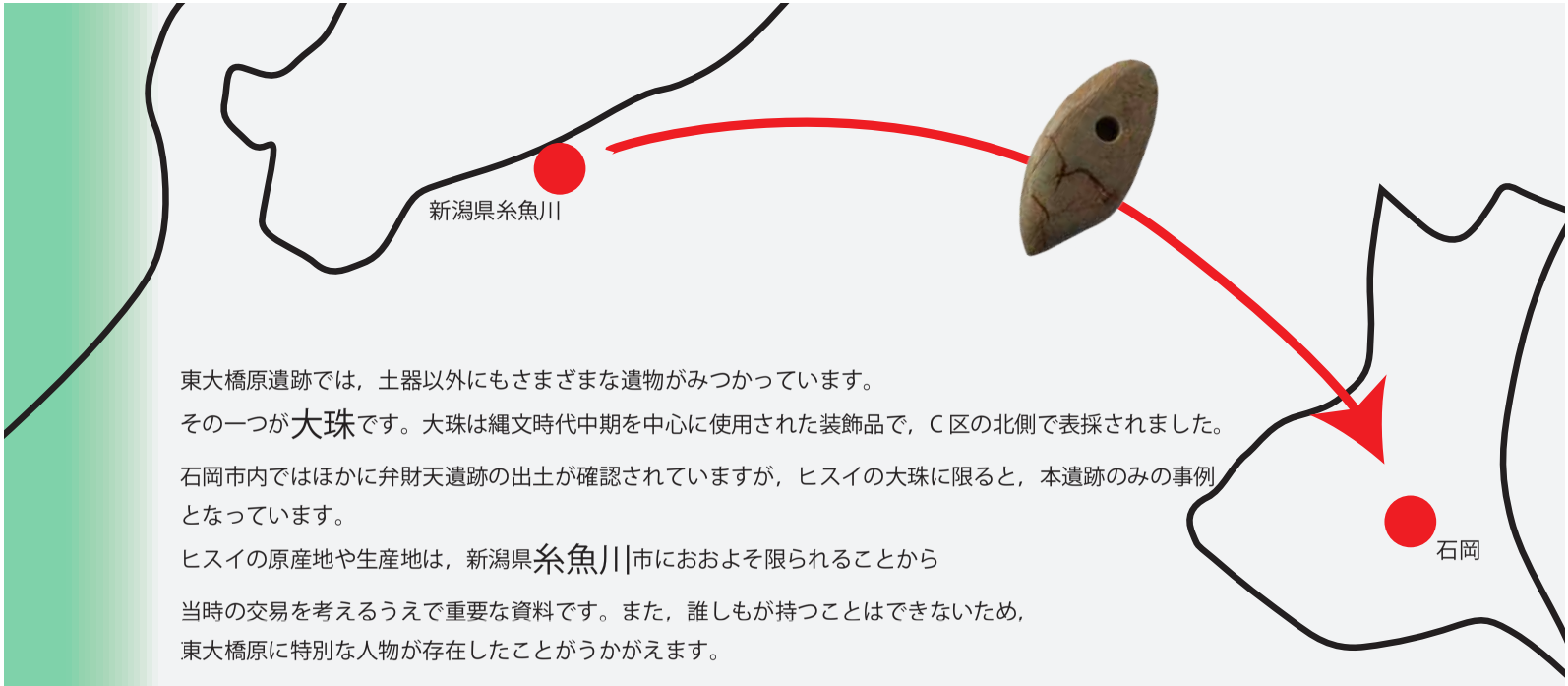
土器分布図（概図）

また，大木式土器は東北地方を中心に作られた土器ですが，その特徴を受け継ぐ土器も出土しています。渦巻の先にとがった文様を付けた剣先文と呼ばれる文様は大木式土器の特徴の一つです。さまざまな地域の影響を受け継ぐ東大橋の人々の姿が目に浮かびます。



土器分布図（概図）

剣先文
これまで連続していた渦巻文が分断される



東大橋原遺跡では，土器以外にもさまざまな遺物がみつかっています。

その一つが大珠です。大珠は縄文時代中期を中心に使用された装飾品で，C 区の北側で表採されました。

石岡市内ではほかに弁財天遺跡の出土が確認されていますが，ヒスイの大珠に限ると，本遺跡のみの事例となっています。

ヒスイの原産地や生産地は，新潟県糸魚川市におおよそ限られることから

当時の交易を考えるうえで重要な資料です。また，誰しもが持つことはできないため，

東大橋原に特別な人物が存在したことがうかがえます。

Pick Up　土製円盤

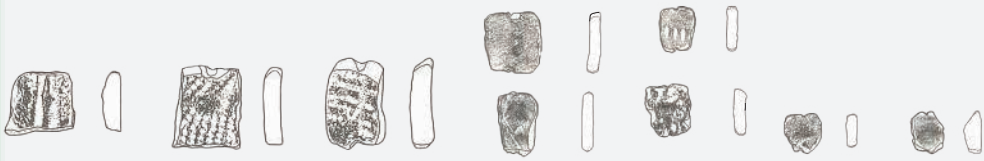
土器片を擦って丸く整えたものです。お祭りの道具説，計算道具説，装飾品として使用された説など多くの説が散見されますが，今のところ用途は不明です。皆さんは，何に見えますか？

この展示室で展示されている土器たちは縄文時代も同じような色だったのでしょうか。もしかしたら，私たちが考えているよりも縄文時代は色彩豊かだったかもしれません。展示されている土器は，外面が赤く彩られています。これらは，赤彩土器と呼ばれ，ベンガラなどで色が塗られていた可能性が高いです。土器を製作する過程で，色も塗られたのでしょうか。
赤く色が塗られた土器は，東京都下宅部遺跡や福井県鳥浜貝塚など低湿地遺跡を代表例として，全国各地で発見されています。
今回展示している土器は，赤いだけでなく内面を黒く塗っています。こちらは，すすなどを混ぜて発色させたのでしょうか。内面を黒く塗っている土器は，石岡市東田中遺跡の浅鉢など市内遺跡でもみつかっています。
縄文人の生み出したコントラストをお楽しみください。

青森県亀ヶ岡遺跡で発見されたベンガラ塊
『史跡亀ヶ岡石器時代遺跡総括報告書』

内面が黒色処理された東田中遺跡出土浅鉢
『東田中遺跡 2』

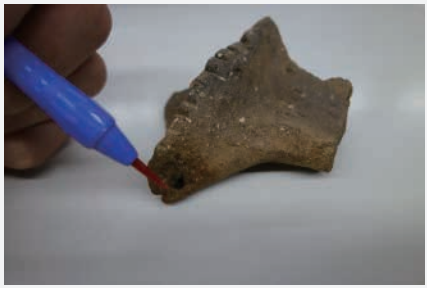
東大橋原遺跡では，打製石斧や磨製石斧といった道具類も出土しています。主に木の伐採などに使用されたと考えられていますが，穴を掘る際や，植物の根を採取する際にも使われていたとも考えられます。また，魚を捕る網のおもりとして使用された土器片錘や，耳飾りなども出土しており，多彩な道具を使用していた縄文人の生活の一端を感じることができます。



下ノ宮遺跡出土土器片錘
『市内遺跡発掘調査 3』

白久台遺跡出土土器片錘
『市内遺跡発掘調査 7』

土器の表面には，さまざまなくぼみが空いています。そのくぼみを丁寧に観察することで，縄文時代の食べ物や生活スタイル・縄文人の精神性を考えることができるようになってきました。ここでは，そのくぼみをより丁寧に観察するための方法と東大橋原遺跡での取り組みについて考えていきます。
土器のくぼみは，そのくぼみのコピー（レプリカ）を取ることで，情報を得やすくなります。その方法を紹介します。



1，観察したいくぼみをよく清掃する

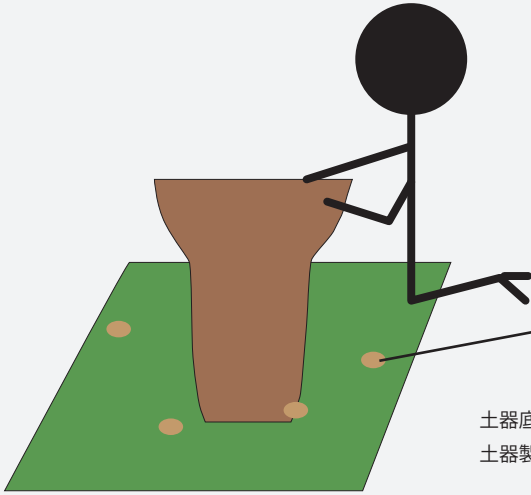
2，くぼみに剥離剤を塗る

3，注射器でレプリカを注入し，固まるのを待つ

4，レプリカを取り外す

こうした手順を踏み，くぼみの正体の解明に近づいていきます。こればかりではなく，土器の底部に多く残っている編み物の素材や技法を解き明かす研究も，この方法を応用することで進められています。また，土器ばかりでなく布目瓦や焼き物の刻印にも活用ができ，今後のさらなる成果が期待できます。

ここからは東大橋原遺跡での圧痕調査の成果をみていきます。
東大橋原遺跡では，縄文時代中期の植物利用の一端として，アズキ亜属種子やエゴマサイズのシソ属果実，キハダの種子が確認されました。これらは，縄文人の生活の場にそうした植物があったことを示唆するものです。
また，土器の底部からはササと思われる編み物の跡がみつかっています。よく観察していただくと，規則的に編み物が作られていることがわかります。縄文人の技術の高さに驚かされます。



土器底部に跡がつく様子（イメージ）
土器製作時の敷物により底部にその敷物の跡がつく

観察された底部圧痕
植物が入り組むようにして編まれているのがわかる

おわりに

今回の展示では，東大橋原遺跡の調査の歩みや，そこから出土した遺物の内容，当時の生活の様子までを多面的に紹介しました。
パネルを見てお気づきの方も多いかもしれませんが，東大橋原遺跡以外にも石岡市では多くの縄文時代の遺物が出土しています。これまであまり目を向けられることのなかった縄文時代について興味・関心を引くきっかけになっていただければ幸いです。
今回展示した土器は，氷山の一角に過ぎません。収蔵庫には未だ整理しきれていない遺物が数多く存在します。引き続き整理を進めていく予定ですので続報をお待ち下さい。

風土記の丘展示の復元住居
風土記の丘でも東大橋原遺跡を含む縄文時代の遺物が展示されています。興味がある方は是非お立ち寄り下さい。

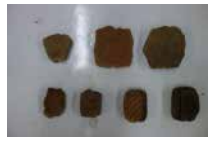
今回の展示につきましては，以下の方々・機関にご協力頂きました。御礼申し上げます。
小林謙一，佐々木由香，長谷川則子，そとの保育園

Memo

展 示 品 一 覧

	展示品名	遺跡名	時　期	写　真	所有者
1	東大橋原遺跡報告書		1978～1980		石岡市教育委員会
2	動物骨	東大橋原遺跡　第2次調査A-J1号住居跡	縄文時代		石岡市教育委員会
3	粘土塊	東大橋原遺跡　第2次調査A-J1号住居跡	縄文時代		石岡市教育委員会
4	住居跡から出土した木炭	東大橋原遺跡　第2次調査A-J1号住居跡	縄文時代		石岡市教育委員会
5	加曽利E式土器	東大橋原遺跡　第1次調査3号土坑・10号土坑/耕作土	縄文時代		石岡市教育委員会
6	阿玉台式土器	東大橋原遺跡　第2次調査B-6号土坑/第3次調査E地区	縄文時代		石岡市教育委員会
7	中峠5次2住型深鉢	東大橋原遺跡　第2次調査A-J1号住居跡	縄文時代		石岡市教育委員会
8	北50住型深鉢	東大橋原遺跡　耕作土	縄文時代		石岡市教育委員会

展 示 品 一 覧

	展示品名	遺跡名	時　期	写　真	所有者
9	曽利式土器	東大橋原遺跡　第3次調査E-21号土坑	縄文時代		石岡市教育委員会
10	土器片錘	東大橋原遺跡	縄文時代		石岡市教育委員会
11	大珠	東大橋原遺跡/弁財天遺跡	縄文時代		石岡市教育委員会
12	打製石斧	東大橋原遺跡　第2次調査表土層	縄文時代		石岡市教育委員会
13	磨製石斧	東大橋原遺跡　第2次調査	縄文時代		石岡市教育委員会
14	赤彩土器	東大橋原遺跡　第2次調査B-5号土坑	縄文時代		石岡市教育委員会
15	浅鉢	東大橋原遺跡　第1調査3号土坑	縄文時代		石岡市教育委員会
16	くぼみ石/すり石	東大橋原遺跡　第2次調査A-J1号住居跡	縄文時代		石岡市教育委員会

石岡市立ふるさと歴史館　第27回企画展

東大橋原遺跡―石岡市の縄文時代―

令和4年1月12日発行

編集・発行
石岡市教育委員会　文化振興課
〒315-0195
茨城県石岡市柿岡5680-1
TEL 0299-43-1111

石岡市立ふるさと歴史館
〒315-0016
茨城県石岡市総社1-2-10
TEL 0299-23-2398